

がんなどの患者が身体的、精神的な痛みをできるだけ取り除きながら穏やかに過ごすことを目指す緩和ケア。その考え方や、実際はどんなものなのかを解説する講演会が10日午後1時半～4時、明石市東仲ノ町のアスピア明石北館8階学習室で開かれる。(片岡達美)

身体的、精神的痛み取り除き穏やかに 緩和ケア知って 専門家が解説

がん患者団体、東仲ノ町で10日講演会

がん患者グループ「ゆずりは明石」主催。緩和ケア病棟(20床)がある、ふくやま病院(硯町2)の譜久山仁院長(44)と同病院緩和ケア病棟看護課長の藤井恵美さん(50)が話す。

同病院では2010年から県立がんセンター(北王子町)と連携し、同センターで治療を受ける患者に並行して定期的に来院してもらい、カウンセリングなどさまざまなケアを行っている。急激に容体が悪くなってから緩和ケアに移行するのではなく、患者が通院できる時期から緩和ケアを行う病院との信頼関係を築いておくことで、切れ目なく、最期まで希望に添えるようにとの考えからだ。

診察には1人約30分か、医師、看護師だけでなくカ

切れ目のない対応や

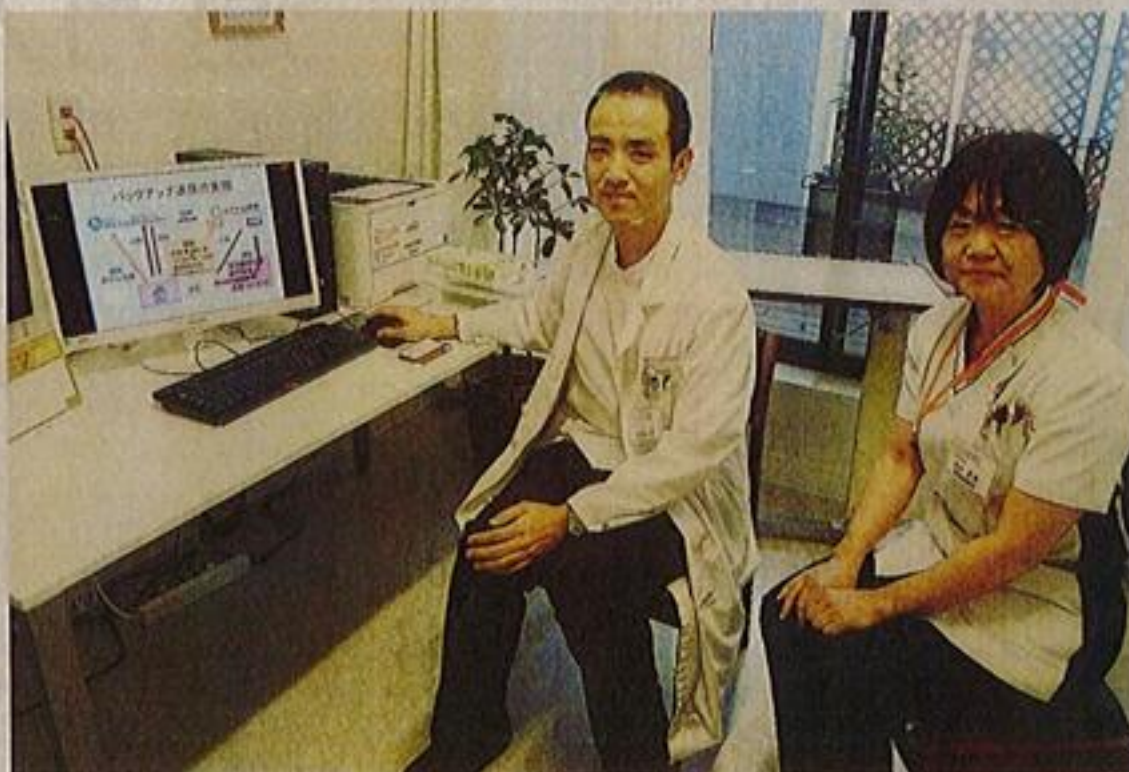
硯町の病院長と看護課長

連携の実際など紹介

カウンセラーや医療ソーシャルワーカーが同席することもある。病気そのものだけでなく、仕事への不安や付き添う家族の問題など、患者と家族の悩みやニーズは多種多様。医療スタッフがそれらを共有することで的確なケアを行うことができる。患者の負担を軽減することにもつながるといふ。藤井看護課長は「チームで対応することで、患者、家族の意思決定を支えたい」と話す。

講演会では、譜久山院長が主に、がんセンターとの連携や切れ目のない緩和ケアとはどんなものかを詳しく解説。藤井看護課長が、同病院で実際に行っているケアについて説明する。参加費は一般700円、学生500円。申し込み不要。

ゆずりは明石 ☎080・4822・1331 (平日の午前10時～午後3時)



「診察では、患者が気兼ねなく、何でも話せるよう配慮する」と話す譜久山仁院長(左)と藤井看護課長(右)硯町2

学級閉鎖

市内今季初

明石市教育委員会は4日、インフルエンザのため、錦浦小学校の5年3組と6年4組について、5、6日の2日間、いずれも学級閉鎖にする旨を発表した。同市立の小中学校と幼稚園では今季初めて。

5年3組では児童31人中5人が、6年4組では37人中3人がインフルエンザと診断されて欠席。両クラスでは、発熱など風邪の症状でも計8人が欠席している。市教委によると、インフルエンザによる初の学級

底を呼び掛けている。(藤井伸哉)

起業の応援へ 9日セミナー

明石商議所

事業の立ち上げや資金調達の方法をアドバイスする「起業応援セミナー」が9日、明石商工会議所(大明石町1)で開かれる。中小企業診断士や日本政策金融公庫の職員が講演する。

同商議所と同公庫明石支店など主催。大学でベンチャービジネス論を教える中小企業診断士投石満雄さん

「パピオス」1周年 音楽で祝う YENA☆など出演 千人楽しむ



パピオスあイベント

明石駅前再開発ビルの施設棟「パピオスあかし」(大明石町1)の開業1周年を祝う催しがこのほど、同ビル内のあかし市民広場で開かれた。親子連れら約千人が音楽ライブなどを楽しんだ。同ビルは昨年12月1日、1、3階の飲食店や物販店、医療機関などがオープン。今年1月にあかし市民図書館や行政窓口など

授センターの中塚博和所長が資金調達のポイントをそれぞれ講演する。実際に起業した人が体験談を話すほか、20分のフリータイムでは参加者の自己紹介や支援機関による相談の受け付けも行う。